

20 川 建 発 第 77 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

岩手県川井村長 内 舘 勝 則



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回報）

平成20年9月19日付け国道企第37号をもって依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたしますので、特段のご配慮をお願いいたします。

本村は、563.07km²という本州でも3番目に広い村である。中でも森林面積が94%を占めており、その中に多くの小規模集落が点在している。このような立地条件から上下水道など生活基盤の整備において効率的な推進が困難な地域が存在するなどの問題が生じている。

道路については、西部に位置する県都盛岡市と沿岸拠点都市宮古市を結ぶ国道106号が東西に走り、また、急峻な北上山系を縦走し、岩手県陸前高田市と青森県八戸市を結ぶ広域的な幹線道路である国道340号は、内陸部の国道4号と沿岸部の国道45号の中間に位置する道路ネットワーク上極めて重要な路線となっている。

県道紫波川井線、大槌川井線、松草大川線の各路線は険しい北上高地間の市町村を結ぶ重要な路線であるが、幅員が狭くカーブが連続するなど整備が遅れている状況である。

これらの各路線は、新幹線や高速自動車道などの高速交通機関へのアクセス時間は90分を超え、地域間を結ぶ道路は狭く蛇行するなど日常生活はもとより緊急を要する医療の観点から交通基盤の整備が喫緊の最重要課題となっている。

今後のまちづくりを推進するにあたって、大動脈となっている国道、主要地方道の整備は勿論であるが市町村が管理している村道は改良整備率が進んできているものの、整備後年数が経過して修繕が必要な道路や未整備の路線も数多く残されており、特に橋梁の老朽化が著しく、維持補修を行うための財源確保に苦慮しているのが実態である。

道路特定財源等について「道路特定財源等に関する基本方針」が本年5月13日に閣議決定され、その中で道路特定財源制度は今年の税制抜本改革時に廃止し、21年度から一般財源化するとされ、また、必要と判断される道路は着実に整備するとしております。

本村の道路整備は、国の補助制度を活用し逐次整備を行ってきたところではありますが、今後とも地方の道路整備の推進を図るため「地方道路整備臨時交付金制度」及び「地方道路整備臨時貸付金制度」の維持を強く要望するものであります。

また、B/Cのことで道路の必要性を問われがちですが、少なからず国道については国の責任のもとで行っていくべきであり、真に必要な道路として格差是正や経済効果をもたらすような取組みとして道路整備を進めていただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

岩手県 川井村

○現状 1. 国道106号地域高規格道路改良事業の推進 106号は、盛岡市と太平洋沿岸の宮古市を東西に結び更に一般国道46号と結ばれ日本海側の主要都市秋田市に至る重要な幹線道路である。	○課題 ・ 国道106号は北上高地の山間地に沿って走っていることからカーブが連続し、またトンネルが多いため低速車の後に続く通行車両が追越しできない状況がある。このような状況を解消し円滑な車両の流れを確保するため、ゆずり車線等の整備を急ぐ必要があり、実施可能なところから逐次進めていくべきである。 ・ 通行車両の速度が速く交通事故も多発している路線であることから歩道の整備、とりわけ橋梁の歩道整備は歩行者の安全安心を確保する点からも喫緊の課題である。併せて、きめ細かい除雪対策が必要である。
2. 国道340号立丸峠トンネル化の推進 本路線は立丸峠のトンネル化を進めてこそ経済格差の是正が図られ、宮古地域、県北沿岸の発展につながるものである。	国道340号立丸峠は、突角改良工事等逐次改良工事が進められておりますが、幅員が狭く急峻なうえに急カーブが残されている状況であり、災害時における緊急輸送路の確保と活力ある地域づくりのため整備が必要とされている。 特に、県北沿岸振興の観点から国道340号立丸峠トンネル化の推進は喫緊の課題である。
3. 主要地方道紫波川井線の整備促進 本路線は、岩手県央紫波町から花巻市、遠野市、川井村経て340号に接続し、三陸沿岸地域を結ぶ重要な役割を持つ路線である。	地形や自然条件の影響から幅員が狭く、急峻なうえに、急カーブが多い交通の難所となっており、冬期間の円滑な交通の確保や安全のため、未整備区間の改良整備を一層促進することが課題となっている。 紫波川井線の当面の課題は、道路の部分的な拡幅や大型バスが運行できる橋梁の改良や待避所の設置、支障木伐採等が必要である。

4. 主要地方道大槌川井線・土坂トンネル事業の推進 大槌川井線・土坂トンネル化は地域住民の悲願であり、盛岡市と大槌町とを結ぶ最短路線であり早期の整備が望まれている。	地形や自然条件の影響から幅員が狭く、急峻なうえ急カーブが多い交通の難所である。冬期間の円滑な交通の確保や安全のため、未整備区間の改良整備を一層促進するとともに、峠道のトンネル化による抜本的な改良が必要である。
5. 一般県道松草大川線道路改良事業の推進 松草大川線は、岩泉町を結ぶ重要路線であるが整備が遅れている。計画的な整備が必要である。	当該路線は、隣接する岩泉町を結ぶ重要路線として農林業をはじめとする産業の振興のため、あるいは、自然とのふれあいを求める多くの観光客の道として重要な役割を持つ道路であるが、幅員が狭くカーブが連続するなど未整備区間の改良整備が課題である。
6. 村道、橋梁の補修工事に係る財源確保について 整備後年数が経過し老朽化が顕著な橋梁が多く、地震の発生により被害が懸念される状況にあり、早急な維持修繕が必要となっている。	山間部を走る本村の多くの道路は橋梁数が多く、日常の住民生活の中で橋は重要な役割を果たしている。 現在、村道、橋梁の点検を実施しており、今後補修が必要な道路、橋梁が多く見込まれるがこれに要する財源確保が喫緊の課題である。

岩手県川井村は、広範でしかも面積が大きいことから、そこに潜在的に残っている観光、産業、文化資源が豊富にあるが、今後はそれらを有効に生かした特色ある村づくりを振興していくことが課題であると考えます。

地域の豊かな生活確保実現のための特色ある総合発展施策を促進するとともに、安全安心な地域社会を形成するための交通、情報通信網といった基本整備も遅れているのが現状であり、この対策が必要不可欠である。

道路行政は、住民生活の根幹に係わることから全ての面において大動脈としての役割を果たしている。安全安心のための防災や医療は人間の生命を守るための重要なものであり、道路はそれを加護する役割を果たしている。

また、地域の発展は特色ある産業や観光の振興を促してはじめて実現の可能性が高まり、雇用の創造にもつながり地域の活性化に生かされていく。そのことにより、個性あるまちづくりが活性化し安らぎと活力に溢れ住民が一体感を持ち、一層住みやすくなったと実感できると考える。

大量輸送、高速輸送の交通ネットワークの整備が図られつつある今日、国土の均衡ある道路網の整備、特に整備が遅れている地方の道路については、早急な整備の必要性を感じているところであり、インターネットをはじめとする大容量・高速情報通信時代に呼応できる道路の整備が必要であり、国は、その計画的な整備の財源確保について検討をすべきである。

全国の自治体では合併が進み広域の自治体が誕生し、自らのまちづくりに努力している現状にあり、川井村も宮古市との合併協議に臨んでいる最中であります。

合併は、自治体が合併するだけではなく、物流的に見ればほとんどの車が国道、高速道路を使い車の流れが広域化するなど地域の広域化がさらに進むことが予想される。医療の広域化や地域の産業の進展、歴史・文化の体験、発信が可能となるなどの要素があり、道路はその先導的な使命を持っているもの考えるところであり、特色ある「道路の中期計画」を期待するものである。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岩手県 川井村

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
地域活力の向上	国道 106 号の地域高規格道路の整備促進 国道 340 号の立丸峠のトンネル化の促進 主要地方道の整備	・ 魅力のある産業集積の整備 内陸部の高速道路、空港へのアクセス ・ 魅力ある新産業の創出 豊かな海と山の未利用資源の活用による 新たなまちづくりの推進が図られる。 ・ 地場産業の振興 宮古市の水産資源、川井村の農林業、県 内陸部との商工業等物流速度の高速化が 期待できる。 ・ 観光立地、誘客活動の強化 三陸海岸国立公園、霊峰早池峰山、内陸 の古都平泉、秋田県・青森県との観光周 遊コースとしての幹線ルートの充実が図 られる。 ・ 森林産業の振興 木の特性を利用した環境保全・教育や循 環型林業の推進が図られる。	

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岩手県 川井村

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
大規模な地震、 火災に強い国土 づくり等	・ 災害時等緊急の迂回道路の確保 ・ 国道 106 号の地域高規格道路の整備促進 ・ 国道 340 号の立丸峠のトンネル化の促進	20 年に発生した岩手・宮城内陸地震や岩手北部地震での被災を目の当たりにして「災害に強い道路」、「命の道路」の整備が必要であると認識した。特に近い将来高い確率で発生するとされている宮城県沖地震も懸念される中、有事の物的、人的輸送の確保が図られる道路整備が必要である。	

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待するや評価等）

岩手県 川井村

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	交通事故防止・犯罪の防止 ・ ゆずり車線の整備（国道 106 号） ・ 国道 106 号の地域高規格化の促進 ・ 国道 340 号立丸峠道の整備 地震や災害等の際の危機管理体制の強化 ・ 国道 340 号立丸峠のトンネル化の促進 防災情報ネットワークの整備 ・ 道路側帯を利用した情報通信網の整備 ・ 道の駅施設を活用した災害情報の提供	・ 急カーブが多く片側 1 車線の道路における低速車による数珠つなぎ状態の解消（後続車からの追い立てが無くなり安全走行に効果がある） ・ 消防、警察等緊急車両の円滑、安全な出動業務が図られる。 道路網の整備は、生命を守るうえで密接な関係にあり、命を守る道路として、距離、時間短縮が図られる。 ・ 広域の医療機関へのアクセス時間の短縮 ・ 広域的な消防防災組織の活動が高速かつ安全走行が確保される。 ・ 三陸地域と内陸部とを結ぶ幹線道路として災害等の対策に必要不可欠であり、特に立丸峠のトンネル化は災害時の迂回道路として整備が急務である。 ・ 携帯電話の不感地帯がある地域では、道路を利用した情報通信網の整備が効果的と考えられる。特に災害等の発生時にはラジオや携帯電話、道の駅情報施設での住民への情報提供が必要である。	

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待するや評価等）

岩手県 川井村

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・ 国道 106 号歩道整備の整備 ・ 国道の連絡道等のバリアフリー化（段差の解消やガードレールの整備）	・ 冬期間は除雪した後の雪が路面に残り歩行者は車道の端を通行することになり、車の通行時には危険な状態にある。歩道設置により歩行者の安全が確保できる。 ・ 高齢化率の高い本村の高齢者や幼児の安全な歩行確保のための施設として改良・整備が必要である。	
良好な景観の形成	・ 道路周辺の支障木の除去による景観の形成 ・ 支線道路の活用と環境の整備	道路を取巻く環境は多種多様であるが、道路と河川が併走している場所の自然環境の整備を行うことにより、人々への安らぎと安全運転の効果をもたらす。 また、幹線道路に接続する小道（旧国道等）はドライバー、同乗者に休憩の場所としての要素が高く、積極的な環境整備と活用の施策を検討	河川管理と連携の取れた溪流の見える道路づくり